

生活科学習指導案

授業 I

1年1組 31名 指導者 木場 幸乃

本授業は、以下の検証を行うものである。

ゲストティーチャーの話の聞いたり質問したりする活動を取り入れることは、地域の人々や通学路にある施設などの対象を自分との関わりで考え、その意味や価値を自覚する「深い学び」を実現するための手立てとして有効であったか。

1 単元 しゅっぱつ がっこうたんけんたい

2 目標

学校の施設や通学路の様子及び学校生活を支えている人々のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるとともに、安全な登下校ができるようにする。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">○ 学校の施設、先生や友達のこと分かり、学校での生活は、様々な施設や人と関わっていることに気付いている。○ 通学路の様子や危険な箇所、安全を守っている人々や施設と自分との関わりに気付いている。	<ul style="list-style-type: none">○ 学校の施設や学校生活を支える人々、友達との関わりについて、自分なりに考えたりすなおに表現したりしている。○ 安全な登下校について自分なりに考えたりすなおに表現したりしている。	<ul style="list-style-type: none">○ 学校の施設、先生や友達などに関心をもって関わろうとし、楽しく生活しようとしている。○ 通学路の様子やその安全を守っている人々に関心をもち、安全な登下校をしようとしている。

4 単元について

(1) 単元について

本単元は、内容(1)「学校と生活」を受けて構成されている。単元の構成に当たっては、学校生活に関わる活動を通して、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して生活したり、安全な登下校をしたりすることを目指している。

学校探検を通して、学校の施設や学校生活を支えている人々に関わることで、学校の施設や学校にいる様々な役割をもつ人々を知り、楽しく安心して学校生活を送ることにつながると考える。また、通学路の安全を守っている人々や施設が分かることで、ルールやマナーを守って安全に登下校できるようになると考える。

(2) 子供について

本学級の子供は、学校にある様々なものや施設や設備の様子に興味をもっており、学級全体で学校内を移動することを探検活動のように楽しんでいる。また、学級の友達や上級生と一緒に遊ぶことを楽しんだり、気付いたことや感じたことを素直に言葉等にして表現したりする姿が見られる。しかし、学校内の施設の役割や、それぞれの先生方の仕事内容を考える姿は見られない。通学路についても、公園やお店などの建物の存在には気付いているが、安全を守っている人々や施設に気付いている姿はあまり見られない。

そこで、具体的な活動である探検活動と、そこで気付いたことを振り返って協働的に伝え合い交流する活動を繰り返すようにする。そうすることで、一つ一つの気づきを自分との関わりで捉え、見付けた人、もの、ことの意味や価値を自覚することができるようにする。

(3) 指導について

本単元では、学校探検や通学路探検を通して、学校や通学路にあるものを見付けたり、そこにいる人と触れ合ったりする。その中で、学校の施設や先生、友達などに関心をもって関わろうとすることや自分なりの「思いや願い」をもって施設を利用すること、ルールやマナーを守って生活することや安全に登下校することをねらいとしている。

そこで、「であう・みつける」過程では、「教室の近くにはどんなものや場所があるのかな。」「今日の健康診断で使う部屋に行ってみよう。」など、自分の学校生活との関わりをきっかけとして、学校探検をスタートすることができるようにする。「かかわる」過程では、2年生と一緒に探検、1年生だけの探検、インタビューを目的とする探検と、学校探検の活動を繰り返していく。それぞれの探検活動の後には、学級全体で振り返り、伝え合う活動を設定するようにする。その際、気付いたことを絵や言葉で表現したり、自分の気づきを友達の気づきと比べたり関連付けたりすることで、気づきの質を高め、次の探検への新たな「思いや願い」をもつことができるようにする。「つたえあう・つなげる」過程では、インタビューを行って分かったことを伝え合ったり、通学路探検を行ったりする。そうすることで、学校生活を支える人々の役割や思いを知り、安心して学校生活を送ることができるようにする。また、通学路の安全を守っている人々や施設があることに気付くことで、ルールやマナーを守って安全に登下校をすることができるようにする。

5 指導計画（総時数 13 時間）

過程	主な学習活動	時間
み つ け る で あ う	1 教室の周りの探検をする。	0.5
	2 健康診断や集会で行く場所を探検する。	0.5
か か わ る	3 2年生と1回目の学校探検をする。	2
	4 探検で見付けたものや感想を発表する。	1
	5 2回目の学校探検の計画を立て、準備をする。	1
	6 2回目の学校探検をする。	2
	7 2回目の探検で見付けたものや感想を発表する。	1
	8 3回目の学校探検（インタビュー）をする。	1
つ た え あ う つ な げ る	9 3回目の学校探検でインタビューした人のことを発表する。	1
	10 みんなで通学路を歩く。	2
	11 通学路探検で見付けたものや気付いたことを発表する。	1
		(本時)

6 本 時（13 / 13）

(1) 目 標

通学路探検を振り返ることを通して、通学路の危険箇所、登下校の安全を守っている人々や施設の存在に気付くことができるようにする。

(2) 評価規準

学校の周りには、登下校の安全を守っている人々や施設の存在があることに気付いている。

【知識・技能】

(3) 指導に当たって

「であう・みつける」過程では、通学路の写真を提示して前時までの学習を振り返ることで、これまでの学習や生活経験を本時の学習へとつなぐことができるようにする。その際、通学路の危険箇所に着目させることで、安全を守っている人々や施設に焦点化することができるようにする。

「かかわる」過程では、通学路探検で気付いたことを自分なりの方法で友達に伝える活動を行う。気づきや考えを友達と伝え合い交流することで、自分の気づきを広げたり深めたりすることができるようにする。また、ゲストティーチャーの話を聞いたり質問したりすることで、自分たちの安全を守っている人々が身近にいるということに気付くことができるようにする。

「つたえあう・つなげる」過程では、本時の学習を振り返ることで、通学路にある施設や、そこにいる人々を自分との関わりで捉えたり、より安心・安全に登下校するための新たな思いや願いをもったりすることができるようにする。

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
であう・みつける	5	1 通学路探検の写真を見て、前時の学習を振り返る。 (<ul style="list-style-type: none"> ・ 車やバイクが通っていたね。 ・ 狭い道があったよ。 ・ 横断歩道を渡ったよ。) 2 本時のめあてをつかむ。 あんぜんにとうげこうするためのひみつをしょうかいしよう。	○ 通学路探検の写真を提示することで、前時までの学習を思い出したり、通学路の危険な箇所を考えたりすることができるようにする。 ○ 写真を基に通学路の危険箇所を考えることで、自分が通学路探検で見つけた安全を守るためのものを紹介したいという思いや願いをもつことができるようにする。
かかわる	30	3 通学路探検で見つけたものを友達に紹介する。 (<ul style="list-style-type: none"> ・ カーブミラーを見つけたよ。 ・ 黄色い横断旗が置いてあったよ。 ・ ぼくが毎日渡っている、歩道橋を通ったよ。 ・ パトカーみたいな車がいたよ。) 4 見つけたものとその役割を学級全体で整理する。 【他者とつなぐ】 (<ul style="list-style-type: none"> ・ 横断旗を持っていると、渡っていることを知らせることができるね。 ・ 歩道橋があるから、車が通る道でも、安全に渡ることができるよ。 ・ 青パトという車があるんだ。お巡りさんが乗っているのかな。) 5 青パト隊の方のお話を聞く。 (<ul style="list-style-type: none"> ・ 青パトに乗っているのは、地域に住んでいる人なんだね。 ・ たくさんの人が乗っていて、びっくりしたよ。 ・ 青パトのおじちゃんが見てくれるから、安心だな。)	○ 通学路探検の後の振り返りの時間に、見つけたものを付箋紙に言葉や絵でかいて可視化しておくことで、気付きを伝え合い交流することができるようにする。 ○ 紹介する際には、気付いたことを説明したり、絵を見せたり、動作化したりするなどの様々な方法で表現してよいことを共通理解しておくことで、自分なりの方法で表現することができるようにする。 ○ それぞれの地区で見つけたものを学級で共有し、話し合うことで、新たな気付きが生まれたり、気付きの質を高めたりすることができるようにする。 ○ 地域の安全を守る活動をしている青パト隊の方をゲストティーチャーとして招き、話を聞いたり質問したりすることで、青パトが自分たちの安全を守っていることに気付くことができるようにする。
つたえあう・つなげる	10	6 本時の学習を振り返る。 【自分とつなぐ】 (<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人がいるから、安心して登下校できるよ。 ・ そういえば、ぼくの通学路にも、横断歩道に旗を持ったおばちゃんがいるよ。 ・ 自分から「おはようございます。」とあいさつしたいな。 ・ 今度見掛けたら「ありがとう。」と言って、手を振ろうかな。)	※ 学校の周りには、登下校の安全を守っている人々や施設の存在があることに気付いている。(つぶやき・発言) 【知識・技能】 ○ 自分との関わりと新たな思いや願いの二つの視点で本時の学習を振り返ることで、学習したことを自分自身の通学路や登下校の場面で捉え、「これからはこうしたい。」という新たな思いや願いをもつことができるようにする。